

ミツミ事業

8本槍製品の相合により今後の成長分野に向けた新製品を開発し、グループ全体の事業機会を創出

取締役副社長執行役員
ミツミ事業本部長
岩屋 良造



2021年3月期の概要

機構部品は世界的な外出抑制による需要増を受けて増収となりました。アナログ半導体はエイブリックの新規連結および好調な受注を受けて増収となりました。

この結果、売上高は3,610億円、営業利益は198億円、営業利益率は5.5%となりました。営業利益については、光デバイスおよびアナログ半導体において合わせて約40億円の一時費用があったことを勘案すると、実質的には前期比で大幅な増益となりました。

2022年3月期の見通し

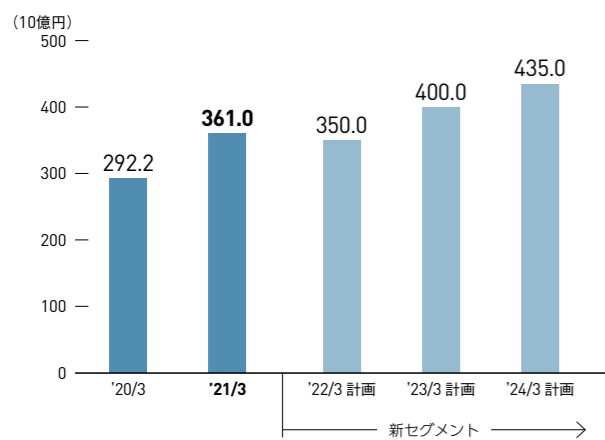
光デバイスは主要顧客における新付加価値モデルの増加により、増収増益を見込んでいます。アナログ半導体は好調が継続する見込みです。

中期事業計画

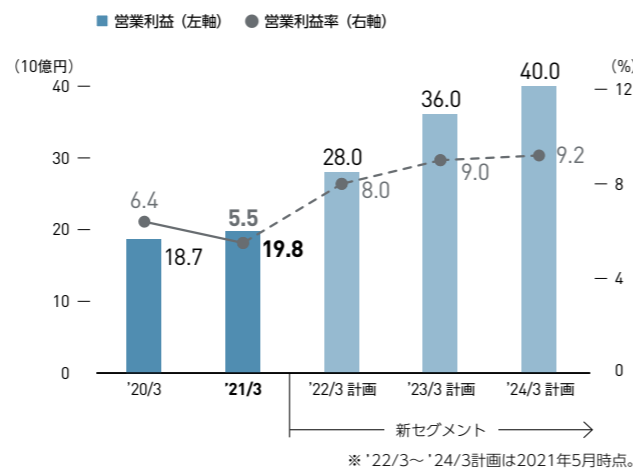
ゲームに頼らない収益体質が確立

主なポイント	
1	光デバイス さらなる業界プレゼンス強化
2	アナログ半導体 シナジーとオーガニックの両輪で成長が加速
3	機構部品 相合力を活用し 新規 OEM ビジネス開拓へ
4	コネクタ/スイッチ/電源 NEXT 半導体のための注力

売上高

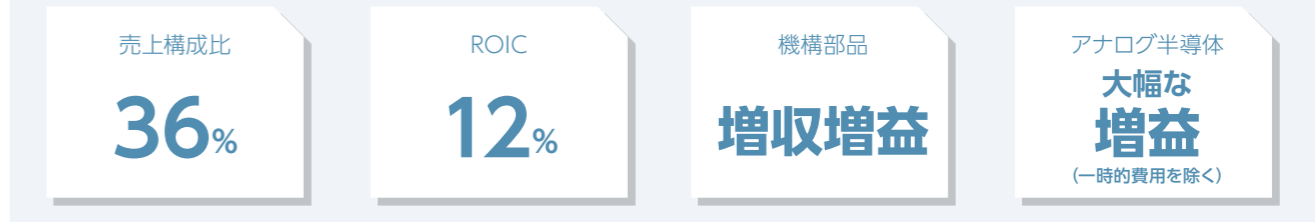


営業利益/営業利益率



※ '22/3~'24/3計画は2021年5月時点。

2021年3月期の概況 ミツミ事業ハイライト



次の10年を見据えた基本戦略

事業の絶対的な永続性の観点から、新8本槍製品を構成する5分野を将来のコア事業として力強く成長させることが、ミツミ事業として最も重要な課題であると認識しています。そのために、サブコアビジネスが生み出すキャッシュを成長原資として新8本槍製品を強化することが、ミツミ事業の基本戦略となります。その執行は、①自律的な成長、②これらの事業を包含する新製品の開発、③これらの事業を有効に活用できるとされる会社のM&Aをおこなうことで達成されます。

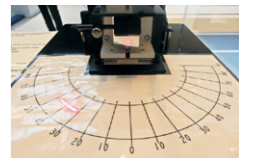
コア・コンピタンス

センサー、光学、MEMS (微小電気機械システム)、高周波技術、電気回路技術、半導体設計技術に代表される超微細加工が求められる分野における技術開発力が競争力の原点です。さらに、経営統合によりミネベアミツミのDNAである超精密加工や垂直統合等のコア技術が融合したことで、開発から量産まで顧客の細かなニーズに一気通貫で対応する体制を整備しています。新8本槍製品の半数がミツミ事業に属し、グループ全体の「相合」を創出する原動力となっています。

『「相合力」でオンリーワンを目指す』戦略

自動車の高度な自動運転技術で必須とされるLiDARに向けて新製品の開発に注力しています。LATM*という当社独自の磁気回路設計から生まれた回転往復運動アクチュエータで、LiDARのミラー角度を高速・高精度で制御するものです。ここで活用される要素技術の一つに超高精度のミニチュア・小径ベアリングがあります。通常ベアリングは一方方向に回転するのに対してLATMでは往復(双方向)

で回転するため非常に厳しい特性が要求されますが、当社の長年にわたるベアリングの蓄積された経験智をいかすことで実現することができました。今後も、当社が保有するコア技術を相合し新たな付加価値を創造、提案してまいります。



* Limited Angle Torque Motor

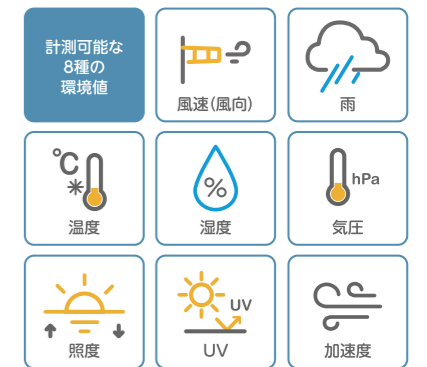
社会課題を解決するソリューション創出

地球規模で気候変動が進む中、さまざまな環境データの変化から自然災害の要因を分析/見える化し、さらに将来起こりうる事象と影響を予測することがますます重要視されています。ミツミ事業はその前身のミツミ電機創業時よりセンサー技術のほか高周波技術や無線通信技術等のコネクティビティに関する技術開発を強みとしていることから、環境モニタリングシステムの構築に向けて大きな事業機会があります。

例えば、当社のMEMS技術を活用することにより温湿度、気圧、気流、雨量、紫外線などが一つの小型デバイスで簡単に測定することが可能となります。さらに、今後はエイブリックのバッテリーレス技術やこのたびオムロン株式会社

から取得したMEMS事業等も相合することで、設置可能領域がさらに拡大します。

このように、さまざまな社会課題の解決に積極的に取り組み環境品質の向上に努めてまいります。



当社製統合型環境センサーの計測可能なデータの事例